

約1年前からめまいが続き、1日中ふらふらします。顎の激痛も加わり、3カ月間、流動食でした。いろんな病院を受診しましたが原因が分からず、心療内科で身体表現性障害と診断されました。どんな病気か不安です。治療法はあるのでしょうか。(35歳、女性)

身体症状症

KARTE カルテ Q & A



松原明弘医師

「身体表現性障害」は近年、「身体症状症」の診断名を使うことが増えています。身体症状よりは、身体症状に対する思

半年以上持続するのが特徴です。痛みなど身体症状が際立つため、多くの人は心療内科や精神科ではなく、まず一般の診療科を受診することが多いようです。ご相談者は、めまいが1年間続いているうえに、食事を満足にできないほどの顎の激痛を併

症状は心身の相互作用によるものと考えられるため、治療は身体関連だけでなく心療内科や精神科の介入が必要で、薬物療法は抗うつ薬の有効性が多くの研究で示されています。一方で非薬物療法も大変重要で、身体と精神の緊張、不安な状態を緩和するリラクゼーション法、

早期の虐待など心理社会的要因が密接に関与していることが多く、心理的に安心できる医療機関でじっくり治療することが重要です。(兵庫真精神神経科診療所協会、松原明弘神戸市須磨区、まつあきこころのクリニック院長) ◆第1、3、4日曜に掲載します。

心療内科や精神科で治療を

考、感情、行動が重視されます。身体症状は一つのことでも、複数の場合もあります。さらに、医学的に予想されるよりもはるかに強く、かなりの苦痛や日常生活での支障をもたらします。それらの症状は、何らかの形で

発しています。いろんな病院を受診しても原因不明で、めまいと顎の激痛との関連もいまひとつ分かっていません。しかも長期間続き、社会生活が困難なようです。それが身体表現性障害、ないしは身体症状症と診断された理由だと思います。

思考のバランスをとる認知行動療法、過活動を管理するページング法などがあります。短期で身体症状を完全に取り去ることを目標とせず、症状があってもできることを考えていくことが有効です。背景には神経症的な気質、幼